被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

消えていった幼い姉妹・・・生きていてほしい

黒々とそびえ立つ比治山の向こうから、被爆者たちが東大橋を渡って逃げてくる場面。手前の幼い少女２人はしっかりと手を握り合って逃げてきた。

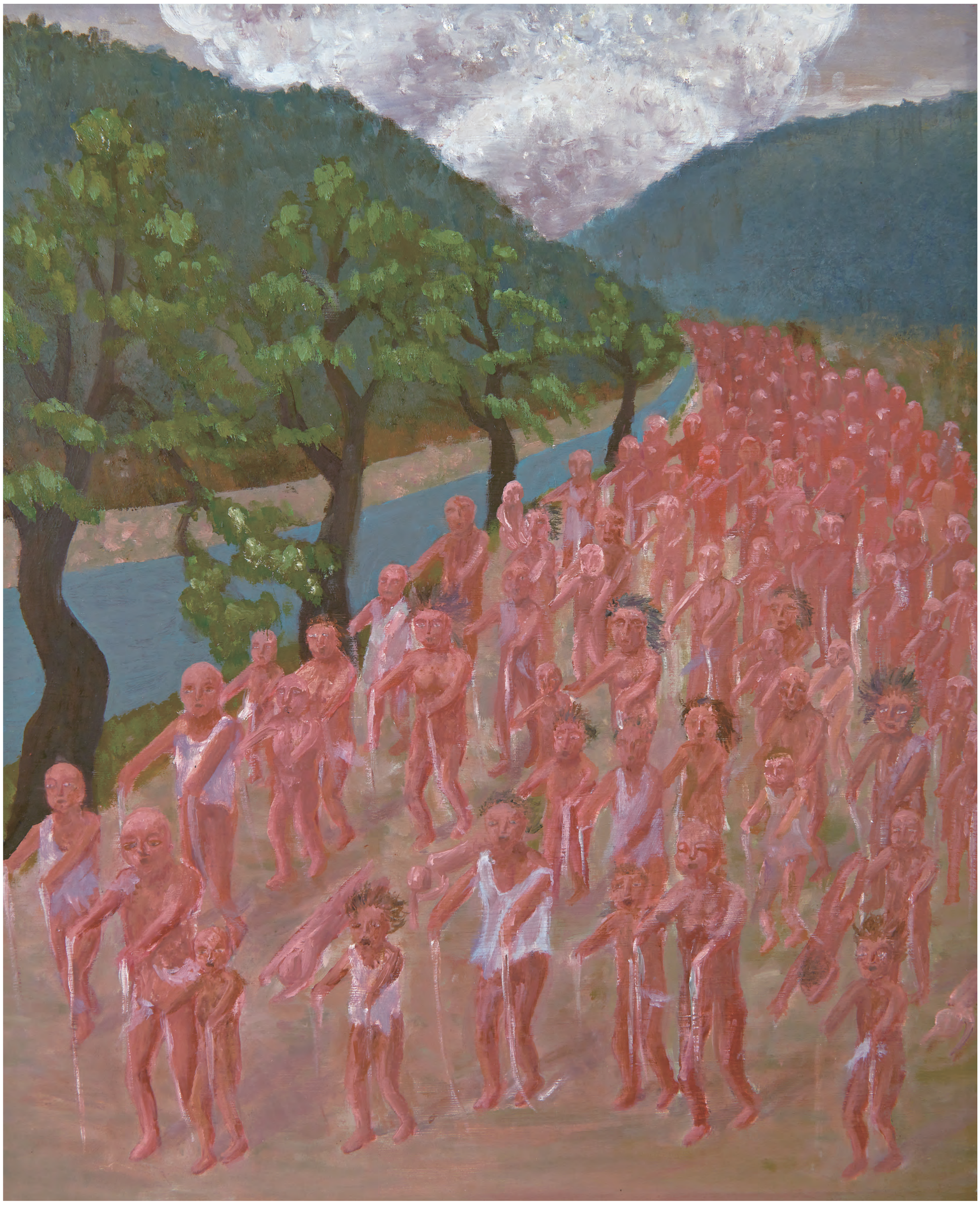
奥には被爆者たちを気遣う様子もなく、部外者を通すまいと立ちはだかる憲兵、さらに市へ入ろうとする記者らしき男性と乱闘する憲兵らがいる。

被爆体験証言者　新井　俊一郎（あらい　しゅんいちろう）氏

絵の作者　中須賀　愛美（なかすか　まなみ）氏（広島市立基町高校２年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館



山陽道・松並木の下で出会った幽鬼の群・・・これが人間なのか！

8月6日、農村動員に出勤していた賀茂郡原村（現在の東広島市八本松町原村）から連絡文書を届けるため広島へ向かう途中、旧山陽道、安芸中野の松並木で数えきれないほど多くの被爆者と出会ったところ。

被爆体験証言者　新井　俊一郎（あらい　しゅんいちろう）氏

絵の作者　西家　奈津（にしいえ　なつ）氏（広島市立基町高校２年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

非常トラック（男性優先）

原爆投下後の広島市内。海田町の病院へ向かう途中のトラックに負傷者が乗せられている様子を描いた。戦場へ兵士として送られる男性が優先的に病院に運ばれ治療を受けたため、老人や女性、子どもさえもトラックに乗せてもらえず、トラックの周りに人が群がり、大騒ぎになったという。

被爆体験証言者　池田　精子（いけだ　せいこ）氏　　**絵の作者**　立川　侑子（たつかわ　ゆうこ）氏（広島市立基町高校２年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

うめつくされゆく川

原爆投下後、逃げる途中、川いっぱいに流れる人々。ざぶんざぶんと川に飛び込み人の勢いは止まることはなかった。川を流れていく全身ふくれあがった人々の身体。ぼろぼろの服、皮膚。川の辺りにはけがを負った親子、今にも飛びこもうとする男性、川に行き着く前に息絶えた人を描いた。

被爆体験証言者　池田　精子（いけだ　せいこ）氏　　**絵の作者**　原　望美（はら　のぞみ）氏（広島市立基町高校２年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

私が見た被爆直後の被爆者（福島川河川敷）

井口さんは福島川の隣にある奉公先の工場の集会所で被爆し、その衝撃で気絶しました。集会所に火が回ってきて目を覚ました井口さんは窓から飛び出し、河川敷に着地しました。

その時、足に釘が刺さり、その釘を抜いて上を向いた瞬間に井口さんが見た光景を絵にしました。

被爆体験証言者　井口　健（いのくち　たけし）氏

絵の作者　伊東　良隆（いとう　よしたか）氏（広島市立基町高校２年）

所蔵／広島平和記念資料館

翌朝の悲しみ

原爆投下の翌日、破裂して水が噴き出す水道管に集まる人々。少年は腕の火傷を水で冷やし、大人達は家族を失った辛さから肩を落としている様子を描いた。

被爆体験証言者　大林　芳典（おおばやし　よしのり）氏　　**絵の作者**　丸住　裕香（まるすみ　ゆうか）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

父の遺骨を捧げ持っている少女

女学生がとてもまじめな顔で、父の遺骨を差し出している場面を描いた。

被爆体験証言者　大林　芳典（おおばやし　よしのり）氏

絵の作者　宮田　実来（みやた　みく）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

少年の思い

原爆に遭い、気付けば崩壊した家の前に立っていた奥田さん、周りには焼けただれた人がうずくまっていた様子を描いた。

被爆体験証言者　奥田　榮（おくだ　さかえ）氏　　**絵の作者**　佐々木　成美（ささき　なるみ）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

八月六日の記憶～燃える電車を見つめて～

一瞬で兄と離れ離れになった。兄を助けることもできず当惑していると、一人の女性が瓦礫から這い出てきた。左肩から大量の出血をしていた女性は、右手で奥田さんの手を引いてくれた。逃げる途中で振り返ると、焼けた市内電車と舞い上がる煙、遠くには原爆ドームが佇んでいた。電車のそばには、逃げ出す力を失い倒れこんだと思われる幾人かの姿があった。

被爆体験証言者　奥田　榮（おくだ　さかえ）氏

絵の作者　濱田　奏衣（はまだ　かない）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

待つ

原子爆弾投下後、子どもの無事を心配しつつ、潮が引くのを待つ母親。潮が引けば、川を渡り家へ帰ることができるのに、似島の方に行く舟に乗せられてしまう場面を描いた。

被爆体験証言者　笠岡　貞江（かさおか　さだえ）氏

絵の作者　久保　玲奈（くぼ　れな）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

ヒロシマ～昇る魂～

原爆が投下された翌々日、被爆してケガで弱っていた父が亡くなり、その火葬を夜海の浜辺で行った。火が消えないように見張りをしていた笠岡さんは、火葬中の炎から青白い火の玉がいくつも立ち昇ってくるのを見たといい、その火の玉が人の魂だと思ったということである。

被爆体験証言者　笠岡　貞江（かさおか　さだえ）氏　　**絵の作者**　立川　奈緒（たつがわ　なお）氏（広島市立基町高校２年）

所蔵／広島平和記念資料館

被爆当日、初めて見た被爆者

当時江波町に住んでいた笠岡さんたちのもとへ、街中へ出かけていた近所の小父さんが、市内で起きた異変を知らせるために戻ってきたところ。小父さんは火傷で皮膚が変色していましたが、市内へ出かけている家族がいる近所の人たちのために、必死に江波まで戻って来た。

被爆体験証言者　笠岡　貞江（かさおか　さだえ）氏　　**絵の作者**　向田　紗希（むかいだ　さき）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

港の船の間に浮き沈みする死体

焼け焦げた死体が、上流から海辺の船場まで流れ着いて浮かんでいるところ。

被爆体験証言者　笠岡　貞江（かさおか　さだえ）氏　　**絵の作者**　西岡　優華（にしおか　ゆか）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

ああ！ 幽霊だ!!

父のために畑にトマトを取りに走って行く時、ふと顔を上げた瞬間、白い幽霊の行列が目の前を行進していた。その場は逃げたが、後から考えてみると、それは皮膚がはがれて垂れ下がった腕を前に出して歩く、灰をかぶった被爆者であった。

被爆体験証言者　笠岡　貞江（かさおか　さだえ）氏　　**絵の作者**　髙山　愛季（たかやま　あき）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

原爆投下後、初めて行った学校で

原爆が落とされた数日後、笠岡さんが友人と共に死体を集めている最中に倒壊した学校の壁を見つけた。それを持ち上げると生焼けの死体が横たわっていた。

被爆体験証言者　笠岡　貞江（かさおか　さだえ）氏　　**絵の作者**　永井　攻（ながい　おさむ）氏（広島市立基町高校２年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

本当に、おとうさん?

原爆が投下された翌日未明、親戚の家に逃れていた大火傷の父親を兄が連れにゆき、荷車に乗せられて家に着いた時の姿。
生きている人とは見えない、体は真黒、何も着ていない、目は見開いたまま、くちびるが可哀想、ザクロのようだった。

被爆体験証言者　笠岡　貞江（かさおか　さだえ）氏　　**絵の作者**　小川　美波（おがわ　みなみ）氏（広島市立基町高校２年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

瓦礫の街

原爆投下直後、崩れた建物から友人とともに脱出した場面。
原爆投下直後の広島の風景はがらんとしていた。

被爆体験証言者　梶本　淑子（かじもと　よしこ）氏　　**絵の作者**　長通　恵（ながとおり　めぐみ）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

再会

被爆から三日が経ち、友人と一緒に自宅へ帰る途中、探しに来ていた父と再会した場面。生きて戻ってくることができた実感と喜びを描いた。

被爆体験証言者　梶本　淑子（かじもと　よしこ）氏　　**絵の作者**　三戸　奈津美（みと　なつみ）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

川

8月6日、逃げる途中に見た、川に流されている人と岸によじ登ろうとする人のいる光景。

被爆体験証言者　梶本　淑子（かじもと　よしこ）氏

絵の作者　上田　桃子（うえだ　ももこ）氏（広島市立基町高校２年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

焼けた赤ん坊と母親

原爆によって崩壊した町を、真っ黒に焦げた赤ん坊を涙しながら抱え、徘徊する母親。失った腕を抱えて歩く中学生。
梶本さんが見られた原爆投下の悲惨な状況を描いた。

被爆体験証言者　梶本　淑子（かじもと　よしこ）氏　　**絵の作者**　平野　弘美（ひらの　ひろみ）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

這い出てみると

学徒動員のため工場に出向いていた梶本さんは、その工場の中で被爆された。潰れた建物から必死で這い出ると、広島の街は一瞬にして瓦礫となり、友人は手足に重傷を負い苦しんでいた。

被爆体験証言者　梶本　淑子（かじもと　よしこ）氏　　**絵の作者**　松島　有希（まつしま　ゆき）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

被爆

原爆投下直後の竹屋小学校を描いた。空は真っ黒で、周囲の状況がまったく見えない中、火事による光でのみあたりが照らされていた。

被爆体験証言者　北川　建次（きたがわ　けんじ）氏　　**絵の作者**　加塩　紫莉（かしお　ゆかり）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

鶴見橋

原子爆弾が投下されて数日後の画面を描いた。空も晴れていて川はとても澄んでいるが広島の町はなくなっていて、むなしさだけが残っている雰囲気である。鶴見橋の崩壊によって原爆の恐ろしさを表した。

被爆体験証言者　北川　建次（きたがわ　けんじ）氏　　**絵の作者**　脇　孝子（わき　たかこ）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

引き潮に呑まれゆく人々

柳の木は燃えて葉が落ち、橋は崩れ、川に死体や瓦礫が流れている。

被爆体験証言者　北川　建次（きたがわ　けんじ）氏　　**絵の作者**　北岡　京子（きたおか　きょうこ）氏（広島市立基町高校２年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

変わり果てた広島の繁華街、新天地

北川さんが竹屋小学校から自宅（現在の新天地）へ帰ろうとしたとき、火が燃えているのを見て呆然と立ち尽くしているところ。

被爆体験証言者　北川　建次（きたがわ　けんじ）氏　　**絵の作者**　山中　亜美（やまなか　あみ）氏（広島市立基町高校２年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

新天地の惨状

北川さんが竹屋小学校から自宅へ戻ろうとしたところ。
当時の新天地は広島一の繁華街で、多くの劇場やお店が立ち並んでいました。左奥に見えるのが新天座で、右奥が花月劇場です。原爆によって建物は瓦礫と化し、一面が火の海になりました。そのため北川さんは、炎から逃れるほかありませんでした。

被爆体験証言者　北川　建次（きたがわ　けんじ）氏

絵の作者　神垣　優香（かみがき　ゆうか）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

被爆楠と比治山に逃げ込む人々

原爆投下直後、北川さんが比治山に逃げていく時に見た光景。

被爆体験証言者　北川　建次（きたがわ　けんじ）氏

絵の作者　中川　佳乃子（なかがわ　かのこ）氏（広島市立基町高校２年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

8月6日の空

当時14歳だった國重さんが練兵場で被爆された時の様子。原子爆弾が炸裂して、青い夏の空に、白く巨大なきのこ雲が現れたところ。

被爆体験証言者　國重　昌弘（くにしげ　まさひろ）氏

絵の作者　坂本　茜（さかもと　あかね）氏（広島市立基町高校２年）

所蔵／広島平和記念資料館

枕木の火

國重さんは広島駅の近くにある東練兵場で被爆されました。そこから廿日市にある自宅に向かう途中で鉄橋を渡った際に、線路の枕木の端が一本ずつ燃えていた様子。

被爆体験証言者　國重　昌弘（くにしげ　まさひろ）氏　　**絵の作者**　三島　悠希（みしま　ゆうき）氏（広島市立基町高校２年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

叫び、苦痛、そして怒り

原爆で火傷を負い、命からがらに帰宅した國重さんが母親に押さえつけられ、ケロイドになるのを防ぐために火傷した皮膚を父親にピンセットで剥いでもらうところ。

被爆体験証言者　國重　昌弘（くにしげ　まさひろ）氏　　**絵の作者**　野邑　遥香（のむら　はるか）氏（広島市立基町高校３年）

所蔵／広島平和記念資料館

重症者を運ぶトラック

大火傷を負いながら自宅に帰ろうと歩いていた。そこに救護トラックが一台。乗せてくれと頼んだが、「お前の火傷ほどでは乗せられない」と断られてしまった。しかし、走り出したトラックに無理矢理飛び乗った。
右のおばあさんに「ちょっと寄ってください」と言った。「イタイ、イタイ、イタイ」見ると、おばあさんのひざが割れている。
左のおじいさんに「ちょっと寄ってください」と言った。「イタイ、イタイ、イタイ」見ると、おじいさんの頭が割れている。
トラックが揺れるたび、うめく人々。私は体を小さくしてじっと耐えていた。

被爆体験証言者　國重　昌弘（くにしげ　まさひろ）氏　　**絵の作者**　宇都宮　未来（うつのみや　みき）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

爆風で下敷きになり焼かれた軍人の骸骨（広島第一陸軍病院第一分院内）

8月10日、叔母に頼まれて爆心地から近い彼女の家の様子を見に行く途中、広島第一陸軍病院の傍を通った。すると、原爆が落ちたことも知らないまま病室で被爆し、骸骨となってベッドに横たわる将校たちがいた。

被爆体験証言者　國分　良徳（くにわけ　よしのり）氏　　**絵の作者**　竹本　茜（たけもと　あかね）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

被爆して避難した河原での出来事

原爆投下後、避難した河原の様子。第十一連隊歩兵隊が避難してきており、東練兵場に避難しようとしていたが、橋が燃えていたため河原に来ていた。
元衛生兵の父親が、持って逃げていたヤカンの水を兵隊たちに飲ませていた。
対岸では神社や食料配給所が燃えていた。

顔に包帯を巻いている将校は、地面に軍刀を突いて立ち上がっており、当番兵がしきりに「上官殿、座ってください」と頼むのを「俺はこれでいいのだ」と聞き入れなかった。

被爆体験証言者　國分　良徳（くにわけ　よしのり）氏

絵の作者　栩田　優希（とちだ　ゆうき）氏（広島市立基町高校３年）

所蔵／広島平和記念資料館

倒壊校舎からの脱出

倒壊校舎から脱出して、材木に挟まってしまった友人を助け出そうとしている場面。

被爆体験証言者　兒玉　光雄（こだま　みつお）氏　　**絵の作者**　花岡　美優（はなおか　みゆう）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

忘れられない～あの眼

倒れた長い塀に腰まで挟まれ、髪を振り乱しながら助けを求めている婦人に足をつかまれ、その手を振り払った場面。

被爆体験証言者　兒玉　光雄（こだま　みつお）氏

絵の作者　富田　葵天（とみた　そら）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

プールサイドの惨劇

廣島一中１年生300名の半数の生徒が、爆心地から1100m辺りで建物疎開作業中に被爆しました。全員重傷の火傷を負い、熱さと苦痛に耐えかねてプールに入る者や、破れた水道の水を取り合って顔にかける者、物陰で横たわり苦悶する者たちの姿は見るも悲惨でした。また、背中からくすぶる煙に水をかけてやる者、土手の芝生には難を逃れてきた半裸の女学生の姿もありました。焼かれてただれた姿にはセーラー服の襟だけが残り、そのおかげで女性と判別できます。暗い埃の闇が収まり太陽が戻ってくると、遠くの福屋と中国新聞社が見え、その窓から一斉に炎が吹き出しました。

被爆体験証言者　兒玉　光雄（こだま　みつお）氏　　**絵の作者**　室星　理歩（むろほし　りほ）氏（広島市立基町高校３年）

所蔵／広島平和記念資料館

人間襤褸（らんる）の群れの中に

私は、爆心地から800m余りの木造平屋校舎内で被爆。辛うじて倒壊校舎を脱出し、学友の救助に尽くしたが、火が回ってきたので校舎を離れ、東方に向う。しかし火のトンネルに阻まれ日赤病院前の大通りに迷い出る。
御幸橋方面に続く電車通りに出ると、爆心地方面からボロ布を纏ったような悲惨な姿をした被爆者の大行列に遭遇する。日赤病院に入れず溢れた被爆者の群れは、一様に両手を前に突き出し苦痛の唸り声と、「水」「ミズ」の呻き声。その行列の中に、左目が飛び出し眼球を左掌に抱えた青年を見て寄り添って歩いた。道端には瀕死の重傷の母親が、乳飲み子を抱きしめ、夾竹桃の枝を握りしめ苦痛に耐えわが子を守ろうとしている姿を見る。
傍を通る傷ついた兵隊の群れは、銃剣を杖代わりに、市民を助ける義務も忘れ逃れていく姿を見て「日本は負けた」と思った。
これらの行列はやがて御幸橋西詰めにかかると、火傷の熱さに耐えきれず川に入る者、臨時救護所に駆け込むもの、そして軍隊から救護にきたトラックに乗って島に避難する者とに分散し、御幸橋を渡る被爆者は僅かになった。

被爆体験証言者　兒玉　光雄（こだま　みつお）氏　　**絵の作者**　津村　果奈（つむら　かな）氏（広島市立基町高校２年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

お母さん待って!

8月7日、白石多美子さん（当時6歳）とお母さんがおばあさんを探して宇品から広島駅に向かっている途中で、道に横たわった焼死体に出合いました。横たわった焼死体は左手を天に突き出し、目を大きく見開いて空を睨みつけていました。焼死体は道一杯に横たわっていたため横を通ることができませんでした。

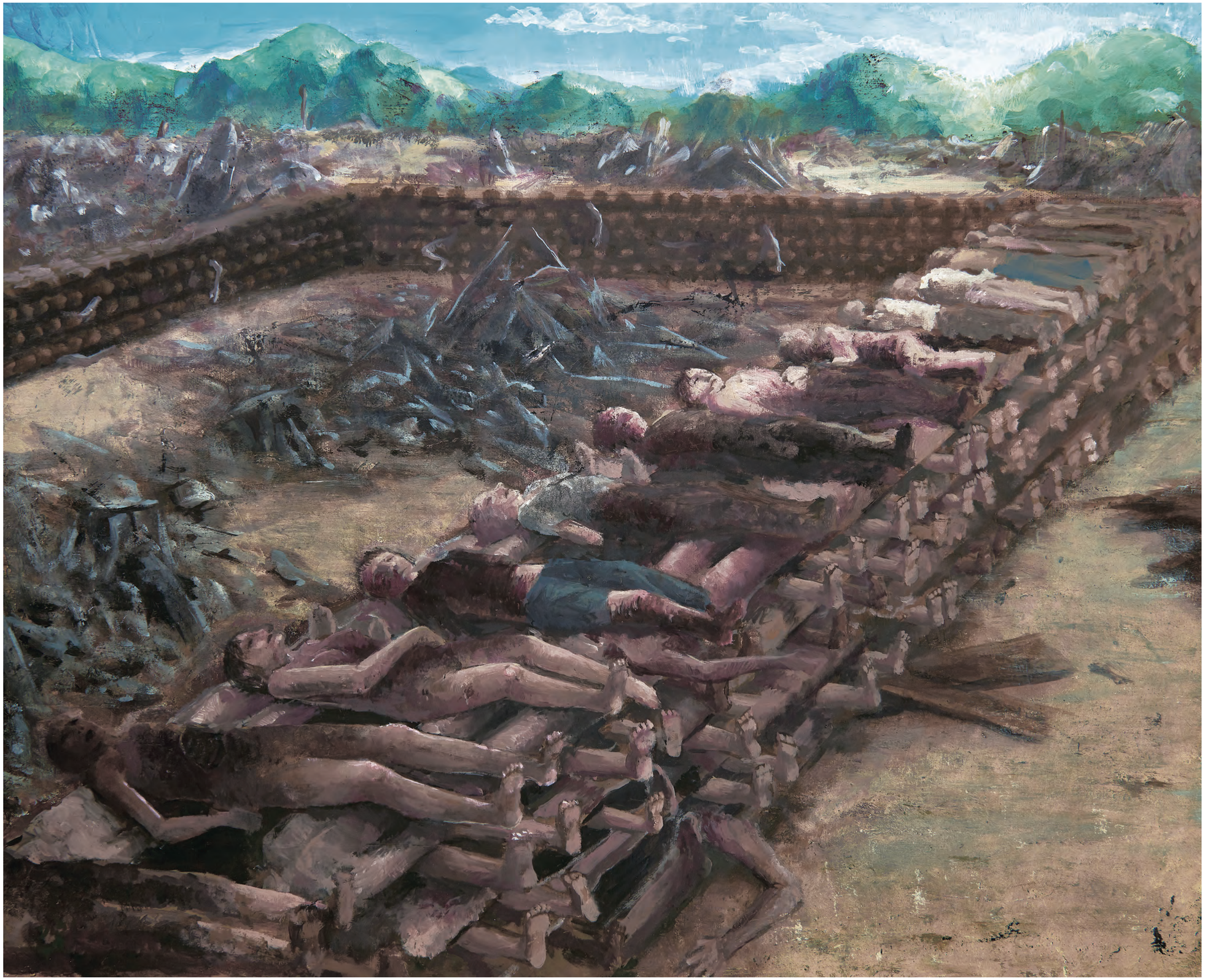
そこで、お母さんは焼死体に手を合わせて「通らしてください。」と言ってからまたぎました。しかし、当時6歳だった白石さんにはその焼死体が大きくてまたぐことができませんでした。その時、お母さんに「細いところ（首や足の方）を通ってきなさい」と言われているところです。

被爆体験証言者　白石　多美子（しらいし　たみこ）氏

絵の作者　山﨑　菜結（やまさき　なゆ）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館



焼却を待つ死体

原爆が落とされた翌日の朝、原爆によって亡くなられたたくさんの人々が整然と積み上げられた光景に出くわした。
山の様に積み上げられていたのではなく、一段一段丁寧に積み上げられていた。

被爆体験証言者　新宅　勝文（しんたく　かつふみ）氏　　**絵の作者**　原　望美（はら　のぞみ）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

静（せい）

原爆投下の翌日の商店街の風景。
原爆の爆風や光などで暴れた馬を、馬借の人が落ち着かせるために覆いかぶさっている光景。
人の影になって馬の顔だけがきれいに残っていた。

被爆体験証言者　新宅　勝文（しんたく　かつふみ）氏　　**絵の作者**　仲元　愛（なかもと　あい）氏（広島市立基町高校３年）

所蔵／広島平和記念資料館

立ったまま白骨になった死体

千田小学校のすぐ近くにあった防火水槽の傍で、炎で焼かれて立ったまま白骨になっている死体を見たときの様子。

被爆体験証言者　新宅　勝文（しんたく　かつふみ）氏

絵の作者　村井　華菜子（むらい　はなこ）氏（広島市立基町高校３年）

所蔵／広島平和記念資料館

死体を積んだトラック

中島町あたりで、死体を焼却する場所に運ぶために、トラックに死体を積んでいる場面。トラック5台が死体でいっぱいになっている。一段ずつ丁寧に並べられ、くずれ落ちないようにされている。

被爆体験証言者　新宅　勝文（しんたく　かつふみ）氏　　**絵の作者**　竹重　美里（たけしげ　みり）氏（広島市立基町高校２年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

おいしかったよお･･･ありがとう･･･。

8月6日、原爆が投下されて1時間ほどがたち、千田町にあった当時の広島大学の大きなグラウンドに、全身に大やけどを負い、白くなった皮膚がずるむけになった人、爆風で飛んできたがれきに肉をえぐり取られた人、絶望に打ちひしがれて呆然とし、座ったまま動かない人…といった、四、五百人もの人が集まっていました。

再びここに戻ってきた新宅さんは、楠の下に、３歳くらいの子供がまだ息をしていることに気が付きました。その子は、全身が大やけどで白くなり、頭の皮もむけ、髪の毛も無くなっていました。新宅さんはその子に水をせがまれたので、防火用水のところに行きました。しかし、防火用水の中には水が一滴も残っておらず、仕方なくへどろに含まれていた泥水を、自分の服のすそに染み込ませ、渾身の力を振り絞ってその子に与えました。するとその子は、そのわずかさかずき一杯の泥水を飲み終えた後、「おいしかったよぉ…ありがとう…。」と言って、安らかな表情のまま、新宅さんの腕の中で亡くなりました。

被爆体験証言者　新宅　勝文（しんたく　かつふみ）氏　　**絵の作者**　岡本　実佳枝（おかもと　みかえ）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

被爆直後の大正橋附近

広島駅から家に帰ろうと大正橋のところまで来た時の、生々しいあり様。全員が裸で火傷を負い、水を求めて川の中に入ったり、橋の上から落ちたりして水を飲もうとする、本当に地獄のようだった。

被爆体験証言者　田川　康介（たがわ　やすすけ）氏　　**絵の作者**　田中　晴気（たなか　はるき）氏（広島市立基町高校２年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

先生の支え

電話局で被爆した後、市の北の方へ逃げるため、橋が焼け落ちた京橋川を泳いで渡っているところ。生徒の中でも特に顔にひどい怪我を負っていた寺前さんの方を、担任の先生（画面中央右）が振り返って励ましている。

画面は寺前さん自身の見ていた視界として描いているが、当時寺前さんは怪我や疲労のせいで目が見えなくなりかけていたので、視界が狭まっていくことを表現するために、周りを暗くした。

被爆体験証言者　寺前　妙子（てらまえ　たえこ）氏

絵の作者　楯田　みゆき（たてだ　みゆき）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

大八車

治療のために収容されていた金輪島から、大八車に乗せられて家へ帰る場面。

被爆体験証言者　寺前　妙子（てらまえ　たえこ）氏

絵の作者　井上　茉美（いのうえ　まみ）氏（広島市立基町高校２年）

所蔵／広島平和記念資料館

被爆した電話交換手たち

電話局で電話交換手が被爆した直後で、仕事をしている格好のまま黒焦げになってしまった方や倒れてしまった方もいた。

被爆体験証言者　寺前　妙子（てらまえ　たえこ）氏　　**絵の作者**　蔵田　成美（くらた　なるみ）氏（広島市立基町高校３年）

所蔵／広島平和記念資料館

朝一緒に遊んでいた友達の姿

朝一緒に遊んでいた友達と避難先の古市のお寺で会った場面を描いた。この友達は、二、三日後に死亡したと聞いた。数分の違いで被爆状況が異なり生命の分かれ道となった。

被爆体験証言者　寺本　貴司（てらもと　たかし）氏　　**絵の作者**　西川　幸（にしかわ　さき）氏（広島市立基町高校３年）

所蔵／広島平和記念資料館

背負われて逃げる途中で見た瓦礫の下の姿（記憶から消えず長い間夢に見た）

逃げる途中、瓦礫の中から首から上だけが出て、目をキョロキョロさせていた女性の様子を描いた。その辺は、すぐに火事になり、この人は生きたまま焼け死んだだろうという思いが残っている。

被爆体験証言者　寺本　貴司（てらもと　たかし）氏　　**絵の作者**　柴田　紗希（しばた　さき）氏（広島市立基町高校２年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

黒い雨の中

原爆によって起きた火事から逃れるため、近所のおばさんに連れられて川の向こうまで逃げたところ、黒い雨が降ってきて、おばさんが持って来てくれたトタンで雨をしのいでいる様子。

被爆体験証言者　寺本　貴司（てらもと　たかし）氏　　**絵の作者**　大中　もも（おおなか　もも）氏（広島市立基町高校２年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

背負われて

原爆投下直後、寺本さん（少年）が近所に住んでいた女性に背負われて、爆風によって崩れた橋を渡って向こう岸へ向かっているところ。

被爆体験証言者　寺本　貴司（てらもと　たかし）氏　　**絵の作者**　児玉　紗世（こだま　さよ）氏（広島市立基町高校２年）

所蔵／広島平和記念資料館

比治山への道

被爆した人々が比治山の道を登っていく様子を描いた。中には、途中で声絶えた人も多く、足の踏み場もないほどだった。

被爆体験証言者　長尾　ナツミ（ながお　なつみ）氏　　**絵の作者**　前田　恵理子（まえだ　えりこ）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

段原の講堂にて

小学校の講堂に避難してきた人たちが、ところ狭しと並べられている様子を描いた。

被爆体験証言者　長尾　ナツミ（ながお　なつみ）氏　　**絵の作者**　三戸　奈津美（みと　なつみ）氏（広島市立基町高校２年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

後に生きる人たちへ

原爆投下後、全身やけどを負った長尾さん本人が彷徨っている様子。

被爆体験証言者　長尾　ナツミ（ながお　なつみ）氏

絵の作者　一ノ間　照美（いちのま　てるみ）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

変わり果てた友人

川の中で友人と再会した場面を描いた。顔が分からないくらい焼けただれていて、松原さんに「私の顔、どうなっている。」と泣きながら聞いている。

被爆体験証言者　松原　美代子（まつばら　みよこ）氏　　**絵の作者**　松原　未羽（まつはら　みわ）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

ショックと怒りと悲しみと

鶴見町で建物疎開中に被爆し、その直後意識が回復して立ち上がった姿を描いた。

被爆体験証言者　松原　美代子（まつばら　みよこ）氏　　**絵の作者**　東郷　佑紀（とうごう　ゆき）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

そこにある命

被爆当日、川を流れてくる人々を橋から眺めている光景。
橋の上の人々は山に向かって避難している。

被爆体験証言者　松本　都美子（まつもと　とみこ）氏

絵の作者　榎　砂千可（えのき　さちか）氏（広島市立基町高校３年）

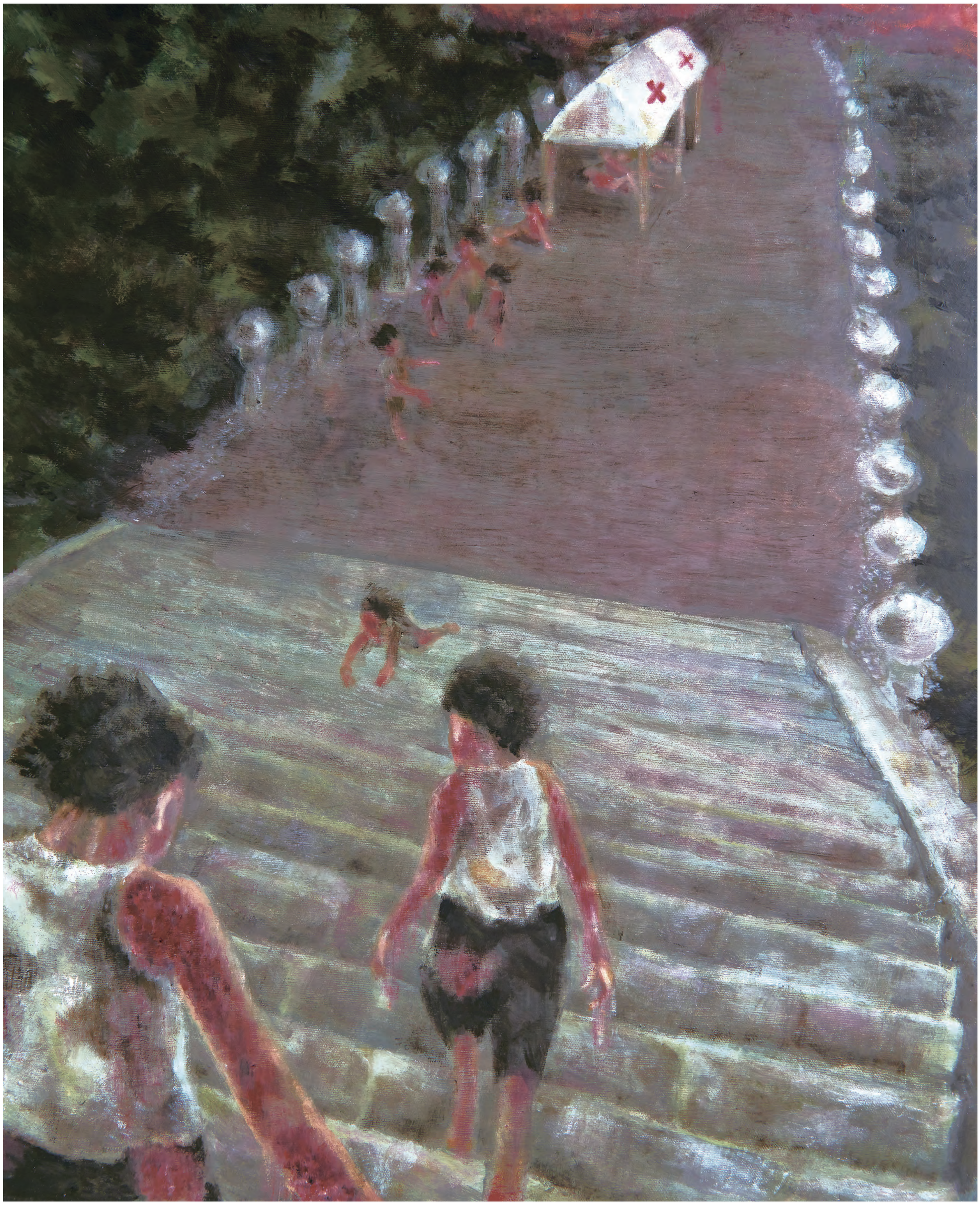
所蔵／広島平和記念資料館

被爆した女学生達

原爆が投下され、辺りがまだ薄暗い中で、自分の怪我には気が付かず、近くにいた怪我のひどい友人を起き上がらせようと右手を引っ張ると、その人の右手の皮膚を取ってしまった、という場面。

被爆体験証言者　森田　節子（もりた　せつこ）氏　　**絵の作者**　西家　奈津（にしいえ　なつ）氏（広島市立基町高校３年）

所蔵／広島平和記念資料館



東照宮にて

助けを求めて東照宮から学校へ向かう場面。お互いに水筒の水をかけ合い、励まし合って進んだ。東照宮の階段を下りていくと、救護所ができていて、市内から逃れてきた人々が集まってきていた。

被爆体験証言者　森田　節子（もりた　せつこ）氏

絵の作者　前原　詩乃（まえはら　しいの）氏（広島市立基町高校２年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

橋渡る時

東照宮にある救護テントの所へ向かう場面。川の上に架かった線路を橋代わりに渡っている。川には生きている人や亡くなった人たちがたくさん流されていた。

被爆体験証言者　森田　節子（もりた　せつこ）氏　　**絵の作者**　嶋田　さくら（しまだ　さくら）氏（広島市立基町高校２年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

御幸橋

原爆投下後間もなくの御幸橋の様子。
被爆した人々が橋を渡って対岸へ逃げている。

被爆体験証言者　渡邉　美代子（わたなべ　みよこ）氏

絵の作者　徳永　美帆（とくなが　みほ）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

閃光

渡邉さんのお父さんが建物疎開作業に出て、土手で建物を取り壊している時に被爆した瞬間。

被爆体験証言者　渡邉　美代子（わたなべ　みよこ）氏

絵の作者　粟谷　果苗（あわたに　かなえ）氏（広島市立基町高校３年）

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」

所蔵／広島平和記念資料館

陸軍共済病院前の風景

現在の県立広島病院前の道にむしろを敷いて、原爆で火傷を負った人々を寝かせている様子。渡邉さんは今でも、その様子を風景だけでなく、においも覚えているそうです。

被爆体験証言者　渡邉　美代子（わたなべ　みよこ）氏

絵の作者　秋元　はづき（あきもと　はづき）氏（広島市立基町高校３年）